

校長室から6 大学での学問探究の世界

～ 横浜国立大学での授業体験 ～

12月4日、本校2年生全員が、高大連携をしている横浜国立大学に行き、大学の授業を2コマ、体験させていただきました。

1コマ目は「A群：大学授業の実際」と題して、全学部の専門的な授業を体験しました。「矛盾する世界の食料事情」、「決算書を読み解く：企業のストーリーと数字」、「次世代加工技術の創造」など、ベストティーチャー賞を受賞した先生方の授業に、生徒たちは圧倒されながらも、学問のおもしろさや奥深さを実感できたようです。

2コマ目は、B群またはC群から1講座を選択して受講しました。「B群：大学の授業って何？」は、「人文系」、「教育系」、「社会系」、「自然系」の4つの分野に分かれ、それぞれ事前に提出した質問事項を基にして、大学の学びについての対話型講義でした。「教育系」では、横浜国立大学の教育学部が、教育現場での実践的な学びを重視していることや「教育学部で教員免許を取得するのと、文学部や理学部で教員免許を取得することの違い」などが話題になっていました。また、「C群：特色ある大学授業」では、「大学図書館の意義と役割」、「日本語を学ぶ留学生の話」、「大学での学びとキャリア」など、大学での学びの環境や、高校との違い、研究の広がりなどを質疑応答を交えて紹介していただきました。

また、生徒たちは、講義の合間に大学の広いキャンパスを歩き、本校から横浜国立大学に進学した先輩にばったり出合って話を聞く場面もあり、大学生活をよりイメージできたのではないかと思います。



生徒たちの感想を紹介します。

- 想像をはるかに上回る面白さで、1日中間いていられると思うほどだった。今まで全く知らなかった内容が大半であったにもかかわらず、講座の大筋の内容を理解できたので、先生の説明の仕方、例えの使い方や言葉の選び方がとてもうまいのだと感じた。とても丁寧に説明してくださり、質問に伺ったときもやさしく教えてくださったので、ぜひともこの先生の下で勉強したい、もっと詳しく化学を教えていただきたいと思った。先生がどのような研究を行っていたのかも気になるので、今度先生の論文を探して読んでみようと思った。非常に有意義な60分間となった。
- 今回の体験で大学は自分の興味ある分野をいろいろな視点を加えながら学べることができ、自分の身になる情報もたくさん得られるので、悔いや無駄がうまれることないように、慎重に学部選びをしたい。
- 今回の授業は精密機械の授業だったが、飛行機の話、物理の話、歴史の話なども出てくると言っていて、高校でもっと他の教科も学ばなければならないと感じた。大学の授業に対しての心構えやモチベーションが上がった。大学の授業を受けて、高校の授業とは違うなと感じた。
- 授業で見られたアクティブ・ラーニングは光陵で普段からしているような感じであったし、内

容が難しく感じても協力して学習できるためいいと思った。私は将来英語を用いた仕事に就きたいと考えているため、多文化理解の場としてこのような場に参加できたのはとてもいい経験になった。もっと英語を学びたいと思った。

- 私は法学部への進学を検討しているので、法学とは何か、何を研究するのかについて学ぶことができうれしく思うとともに、意欲を高めることができた。
- 大学の授業ではより専門的になると言われるが、具体的に「経済」の「会計」の分野と細かく見ていくと、今回は楽しめる内容であったが生半可な気持ちで決めてしまうのは、自分自身が苦しくなるし良くない。身が引き締まる思いにさせていただいた。
- 正直、ここまで心理学が教育に必要であるとは思ってもみなかったです。技術に対する価値観は人それぞれですが、それを強制するのではなく、心理学を駆使して誘導していくことが大切なのだとわかり、とても魅力的で楽しそうだと感じました。このように魅力的な授業がたくさんある教育学部の授業をぜひ、たくさん受けてみたいと思います。
- 教員という仕事の本質を初めて教わった気がして興奮した一時間でした。(中略)もともと子供が好きなので、大学での学びが非常に楽しみになりました。先生のお話の分かりやすさに感動しましたし、教育を専門とする先生の教育を受けられるのが、教育学部の他にはない長所だと感じました。
- いい先生とは自分を大切にできる、自分の時間を大切にできる先生だという言葉が深く心に残った。横国大の教育学部で学びたいとさらに強く感じた一時間だった。
- 教育学部では、今の私の生活(学校生活)がそのまま学ぶ対象になるので、高校生のうちに教わる側の視点をよく理解しておきたいです。
- 大学では今までの小中高とは全く違う心持ちで臨まなければならないということがわかり、今のうちから何がやりたいのかを見つけておく必要があると思った。KUでは大学と同じようなことをやっていると分かったので、今まで以上に真剣に取り組んでいきたいと思った。
- 今回の活動を通して、大学の授業は高校の授業と違い、興味のある内容を自ら学びにいかないといけなことに気付いた。
- 最も印象に残ったのは教授が言っていた「専門は決めないほうがいい」という言葉で、これから理系だからとか文系だからなど言わず、どのような分野にも興味を持ち、勉強していこうと考えた。
- 今の化学の授業でやっているところとかかわりがある内容で面白かったです。だからこそ、現在の授業をないがしろにしてはいけないと改めて感じました。
- 今まで商学部・経営学部のマーケティングにしか目を向けていなかったけれど、今回の授業で会計や経営も面白そうだなと思うようになりました。大学進学に向けてもっと本格的に勉強を頑張ります。
- (授業について)専門性が高いと思うし、単純にレベルが高い。ただ、その分、理解をしてみたいという興味が高まった。将来やりたいと思っている分野とは違ったがそれでも興味が湧き、教授の知識の深さを感じた。それに自分も特許を取ってみたいと思った。
- 『「知識の限界」であり続ける図書館に話し合いスペースも作られていることに「知られていること」を提供するだけが図書館ではない』という視点はなかったので興味を持った。研究活動の場を提供することも図書館の活動だと知り、図書館の利用が増えることにつながると思いました。